

小学6年生担任

暴力・暴言の多いこの学年の実態を考え、依頼させていただきました。

教師として、子を持つ親として、弟のいる兄として、いろいろな立場から思い描きながら、お話を聞かせていただきました。特に「生きていること」ということで“手”を合わせ温さを感じたり、握ったり・・・その“手”が、人をいやしたり、助けたりできるものであると同時に人を傷つけ苦しめるものであるということが印象的でした。「みんなの“手”は何のためにあるのか・・・」ということ卒業までの残り少ない日数で伝えていきたいと思います。

私自身の人生観(子どもたちには「生き方」と伝えていますが)とも重なる部分も多く、機会あるごとに今日のお話を振り返らせたいと思います。

今日は遠い所からから、本当にありがとうございました。

小学6年生担任

本日は出張のためお話が聞けず残念に思っています。
教室に戻り、子どもたちにどんな事を聞かせて頂いたのか心に残ったか聞くと多くの事に気づき学んだ事を話してくれました。「冗談のつもりで叩いてしまっていたが、謝りたいと思った。」「相手を思いやってお互いに優しくしあえる関係をつくりたい。」「病気の祖父の事を想って、もっと自分に何かできないかと思った。」と様々な言葉で語ってくれ、とても子どもたちの心をゆさぶるお話だったのだと感じました。また、本学級では女の子同士でのもめ事があったのですが市原さんの話をきっかけに話し合いをし関係を修復していこうと自分達で行動を始める子もいました。自発的に動いてくれとても嬉しく思っています。卒業、中学校入学前にこの子たちが大きく成長するきっかけをつくって下さった事に感謝しております。私も子どもたちが自分を大切に加害者にならない、手の温もりを感じられる子どもたちを育てていこうと改めて考えさせられました。
本当にありがとうございました。

保護者

貴重なお話を聞けてよかったです。

自分の子どもと重ね合わせ、また病院での家族の風景を想像し、何ともいたたまれない気持ちでかかせていただきました。

我が子がいなくなるって全く考えられないことです。

人の手により、人の発言により、人を痛めるのは、子供だけでなく大人でも再度自分を見つめ直さないといけないと思いました。

市原さんがお話できるようになるまで、大変な日々だったと思います。まず、悲しみから怒り、落ち込み、希望、etc すべての感情がわき上がったのではないのでしょうか。本当に貴重な時間でした。

ありがとうございました。